
トラック3『お風呂のご用意ができました。シャンプーいたしますね』

【琴葉】

「主さま、失礼致します」

【琴葉】

「あの……よろしければ顔をお剃りいたしましょうか？」

【琴葉】

「あっ、素人に任せるのは心ともないというのでしたら、もちろん断っていただいても……」

【琴葉】

「でもご安心ください。主さまに喜んで頂きたくて、しっかり練習したんです」

【琴葉】

「少しでも癒やせることができれば、と思って……」

【琴葉】

「あの……ダメでしょうか……？」

【琴葉】

「ふふっ、ありがとうございます。主さまにご満足頂けるように、頑張りますね」

【琴葉】

「あっ、少々お待ちください。着物をたすき掛けにして準備いたしますから」

【琴葉】

「これでよしと……。では主さま、失礼いたします」

【琴葉】

「泡を塗りますね。本当は石けんを溶いて泡を作ったほうがいいのですが、用意できなくて……」

【琴葉】

「市販のスプレーになりますので、パチパチ音がしますが気になさらないでください」

【琴葉】

「では……左耳から剃りますね」

【琴葉】

「あの……主さま……わたくしは、はしたない女でしょうか？」

【琴葉】

「いくら主さまのお世話とはいえ、こんなお風呂にまで乗り込んで……」

【琴葉】

「その……主さまの……裸、を……ううう～、恥ずかしい……」

【琴葉】

「もし主さまのご迷惑になるようでしたら、今後は入浴の邪魔はいたしません」

【琴葉】

「……いかがでしょうか？」

【琴葉】

「えへへ……許可していただいて、ありがとうございます」

【琴葉】

「じゃあ、続けますね。ジョリジョリ……シヨリシヨリ……」

【琴葉】

「はい、左耳は終わりました。次はあ……」

【琴葉】

「こちらですよ？ 動かないでくださいね……」

【琴葉】

「あの……主さま、目を開かないでくださいね？」

【琴葉】

「この距離で主さまと目が合ったら……わたくし……ううう～……」

【琴葉】

「想像しただけで恥ずかしくなってしまうす」

【琴葉】

「だから……絶対に目を開けちゃダメですよ？」

【琴葉】

「もう少しで終わりますからね……ジョリジョリ……シヨリシヨリ……」

【琴葉】

「こうして主さまとお風呂まで一緒できるなんて、わたくしは幸せ者です」

【琴葉】

「お顔に触れ、肌に触れ、主さまを感じられる……」

【琴葉】

「わたくしの手が主さまを癒やしていると思うと、とても優しい気持ちになれるんです」

【琴葉】

「こんな優しい気持ちをくださるなんて、主さま……本当にありがとうございます」

【琴葉】

「ずっとずっとお慕いしたい……そんなワガママを許していただけますか？」

【琴葉】

「例え主さまがわたくしを嫌いになっても、わたくしは主さまお慕い続けます」

【琴葉】

「主さま……大好きです……」

【琴葉】

「はっ、恥ずかしい……でも、どうしてもお伝えしたくて……」

【琴葉】

「お顔を剃っているときでよかった。主さまに見つめられていたら、きっとお伝えできませんので……」

【琴葉】

「……そろそろ終わりますね。泡は後で流しますので、しばらくはそのままです」

【琴葉】

「では、次はシャンプーをいたしますね。少々お待ちください」

【琴葉】

「このシャンプー、とても泡立ちが良くて評判なんですよ」

【琴葉】

「香りも爽やかで、きっと主さまも気に入ってくださいますよ」

【琴葉】

「今、泡立ってますね」

【琴葉】

「それではシャンプーいたしますね」

【琴葉】

「どこか痒いところはありませんか？ 遠慮なくお申し付けくださいね」

【琴葉】

「全体的にい……シャコシャコ、シャコシャコ……ゴシゴシ、ゴシゴシ……」

【琴葉】

「頭にはたくさんツボがあって、刺激すると疲労回復にいいそうです」

【琴葉】

「耳の裏のツボは首筋の肩こりや眼精疲労に効くとか……」

【琴葉】

「ここのツボです。少し刺激しながらシャンプーしますね」

【琴葉】

「シャコシャコ、シャコシャコ……ゴシゴシ、ゴシゴシ……いかがですか？」

【琴葉】

「主さま、溜息が漏れてますよ？ 空気が抜けた風船みたいに『ふう〜』って」

【琴葉】

「なんだか可愛らしくて、ぎゅううう〜〜〜ってしたくなっちゃいます」

【琴葉】

「いっぱいリラックスしてくださいね」

【琴葉】

「ゴシゴシ、ゴシゴシ……シャコシャコ、シャコシャコ……」

【琴葉】

「主さま、外回りのときは帽子を被っていらっしゃいますか？ ダメですよ？ ちゃんと被らないと」

【琴葉】

「熱中症になってしまったら大変です。明日からはちゃんと被ってくださいね」

【琴葉】

「『被ったー』って嘘ついてもダメですよ？ シャンプーをするとすぐにわかりますから」

【琴葉】

「髪に触れるとわかるんです。痛んでいるかどうかって」

【琴葉】

「『小言がうるさいなあ』って思っていないですか？ これも主さまのためですよ？」

【琴葉】

「主さまはご自分の体に無頓着すぎます。たまに釘を刺さないと、いろいろとサボってしまいますから」

【琴葉】

「日焼け止めや帽子、それに水分補給だって……本当にご自愛くださいね」

【琴葉】

「明日、帽子を被ってなかったら、——めっ！ って叱っちゃいますから」

【琴葉】

「むう～～～っ、笑わないでください。わたくしだって、たまには怒るんですよ？」

【琴葉】

「とにかく約束してくださいね？ ちゃんと日焼け止めも塗って、帽子も被るって」

【琴葉】

「ふふっ、ありがとうございます。では、もう少しシャンプーしますね」

【琴葉】

「そろそろ泡を流しますね。主さま、目を開いちゃダメですよ？ 染みてしまいますから」

【琴葉】

「では、流しますね」

【琴葉】

「主さま、明日もお忙しいのですか？」

【琴葉】

「明日も暑くなるようです。冷たい飲み物とおしぼりを用意して、お帰りをお待ちしておりますね」

【琴葉】

「今日はお風呂の準備に少し時間が掛かってしまいましたが、明日はすぐに入れるようにご用意しておきます」

【琴葉】

「主さま、熱くないですか？ 熱かったら言ってくださいね」

【琴葉】

「もう少し流しますよ？ ゴシゴシ……ゴシゴシ……じゃ～……じゃ～……」

【琴葉】

「このシャンプー、泡立ちがすごいと聞いていましたが、本当にすごいですね」

【琴葉】

「主さまがモコモコになっちゃってます。えへへ」

【琴葉】

「なんだかモフモフの子犬みたいですyo? 主さま、とても可愛いです」

【琴葉】

「主さまのいろいろな一面が見られるのも、わたくしの特権ですね」

【琴葉】

「……えっ? わたくしのいろいろな一面ですか?」

【琴葉】

「感情はあまり出さないようにしています」

【琴葉】

「感情を出すと、主さまに不快な思いをさせてしまうこともありますから」

【琴葉】

「ううう〜……なんで笑ってるんですか?」

【琴葉】

「わかってます。感情が漏れちゃってるって、もうわかってます」

【琴葉】

「わたくしが怒ったり泣いたりしても、主さまは優しく受け止めてくださいますので……」

【琴葉】

「つつい甘えてしまうのが、わたくしの悪いところです。申し訳ございません」

【琴葉】

「でも、主さまが許して頂けるのなら……その……今のままでもよろしいでしょうか? ……ダメ……ですか?」

【琴葉】

「ありがとうございます! えへへ……とても嬉しいです」

【琴葉】

「あっ、申し訳ございません。少しおしゃべりが長くなってしまいました」

【琴葉】

「もう少し泡を落としますので、少々お待ちください」

【琴葉】

「サッパリなさいましたか？ あっ、まだですよ？ お体が残っていますので」

【琴葉】

「主さまはそのままです。わたくしがお背中を流しますね」